

## ■効果の見える河川事業

### 徳島県 園瀬川広域基幹河川改修事業



徳島県県土整備部 東部県土整備局長 おとみ けいぞう  
音見 敬三

○事業内容 園瀬川は、その源を名東郡佐那河内村上付近に発し、徳島市を北東に流れ、新町側に流入する、流域面積 67.0 km<sup>2</sup>、流路延長約 25.5 km の一級河川であります。

園瀬川については、昭和 21 年から改修事業に着手し、事業効果を早期に発現させるため、当時、資産のある片岸だけを築堤し、資産のない対岸を遊水させる片岸築堤方式で一次改修を終えております。

しかしながら、その後の流域の都市化の進展や昭和 25 年のジェーン台風による浸水被害を契機として、昭和 28 年に流量改訂を行うとともに、両岸築堤による改修方式に変更し、現在は延長約 7.5 km の区間で下流から再改修を実施しております。

また、園瀬川流域では、近年にもたびたび浸水被害を受けていることや、右岸側に国の徳島南環状道路の整備が進められていることから、平成 15 年度から「緊急対策特定区間」の選定を受け、平成 19 年度までの 5 年間で寺山工区下流の築堤締切を緊急的に実施し、浸水被害の軽減が図られております。

今後は、未改修区間である川北工区及び川西工区において改修を進める予定であり、国の道路事業と連携を図り、早期の無堤地区の解消に向け、園瀬川の河川改修に取り組んでまいります。

○施行箇所 徳島市新浜町～徳島市上八万町

○施行期間 昭和 21 年度～平成 29 年度

○施行延長 L=7,515 km

築堤、河道掘削、護岸整備、橋梁改築、樋門改築等



### 県民襲う水の恐怖



## 豊かな自然と共存する水害に強いまちづくり



徳島市長 ほら ひでき  
原 秀樹

徳島市は、四国一の大河“四国三郎 吉野川”の沖積平野に発達し、年間を通じて比較的温暖な気候に恵まれ、東部は紀伊水道に臨み、南部は山々の緑を背にした自然豊かな都市です。また、本市の象徴ともいべき眉山や、城山が市の中心部にあるほか、吉野川をはじめ大小 138 の河川が市内を縦横に流れる他都市に類をみない水とともに発展してきた都市です。中心市街地には、新町川と助任川に囲まれた「ひょうたん島」の愛称で親しまれている地域があり、その周辺を巡る周遊船が運航されているほか、緑や光により、水の魅力を演出する景観づくりが行われるなど、水を生かした個性的な市街地が形成されています。

一方、市の南部を流れる園瀬川下流域の八万・上八万地区は、ゲンジボタルや絶滅危惧種のスナヤツメが生息するなど多様な自然環境を形成しており、また、河川改修に伴う埋蔵文化財調査により寺山遺跡が発掘されるなど往古の文化が偲ばれます。上八万町の宅宮(えのみや)神社では、毎年 8 月 16 日の送り盆の日に「神踊り」、「出雲踊り」など多彩な芸風の風流踊りが奉納されており、悪病退散を祈念し、五穀豊穡を願うこの踊りは、古い時代の踊り形態を伝えているとして、昭和 38 年に本市の文化財に指定されています。

園瀬川の改修については昭和 21 年から行われていますが、平成 16 年 10 月の台風 23 号による豪雨により八万・上八万地区では死者 2 名、家屋の床上・床下浸水 236 戸という大きなツメ跡を残しました。この地区の河川改修と内水排除による浸水対策は長年にわたる大きな課題であり、台風 23 号の被災後、地区住民の要望もますます強くなっています。

このため、当該地区において、「豊かな自然と共存する安全で安心して暮らせるまちづくり」を目標に都市再生整備計画を平成 19 年 3 月に策定し、水害に強いまちづくりの実現に向け、河川改修、道路整備及び排水施設整備事業等との調整を図りつつ総合的な推進に努めています。また、八万地区の橋北・法花谷・寺山においては、徳島南環状道路との連携により「緊急対策特定区間」として平成 15 年度から平成 19 年度にかけて緊急に整備を行い、これにより早期に無堤地区が解消され、浸水被害の軽減が図られています。

今後は、残された上流部の無堤区間の改修が一日も早く完成し、住民が安全で安心して暮らせるよう、国及び県と連携を図りながら水害に強いまちづくりを推進してまいりますので、関係各位の更なる御尽力、御協力を賜りますようお願いいたします。



夜の新町川水際公園



新町川における周遊船運航状況



発見されたスナヤツメ (絶滅危惧 I 類・徳島県カテゴリー)